

第3回 国際戦略総合特区間の連携促進に関する幹事会

空港臨海部インフラ整備の考え方

平成24年12月18日(火)

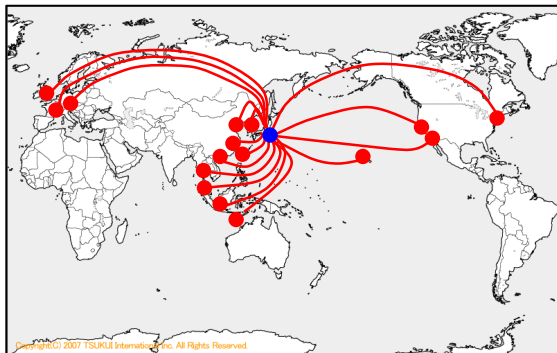
大田区



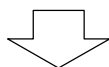
大田区(空港臨海部)における交通ネットワークの現状と課題

現 状

◆羽田空港(再拡張・国際化)



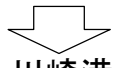
現状39.0万回の発着容量が平成25年度中には
44.7万回に増枠



旅客・貨物→増

◆羽田空港は道路ネットワークの要衝

京浜三港連携
陸上・海上輸送の円滑化により三港を物理的一体化
【京浜軸の形成】



東京港・川崎港・横浜港
などの中心に位置



交通の要衝

MICEの連携
東京ビッグサイト、パシフィコ
横浜等MICE機能連携の
中央に位置



課 題

■円滑な道路ネットワークの形成

空港再拡張やゲートブリッジの開通、京浜三港の連携などによる交通量の増加

■公共交通網の充実

JR蒲田と京急蒲田の連絡性・空港アクセス性などが脆弱



道路交通ネットワークの方向性

◆幹線道路ネットワークの構築

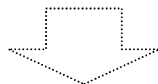
都市計画決定済みの広域幹線道路及び補助幹線道路の早期実現



図: 東京都HPより

◆国道357号の早期開通

空港臨海部は、東京港と羽田空港を擁することから首都圏の重要な東京湾岸交通網の一翼をなしている



羽田空港のアクセス強化及び京浜三港の連携促進等



国道357号の多摩川トンネル以南の早期整備着手



イメージ

◆大鳥居交差点、羽田ランプの交差点改良

交通渋滞



- 首都高速の料金体系の見直し実現
- 大鳥居交差点の改良



将来的な課題

大鳥居交差点の立体交差化及び羽田ランプ交差点改良の実現



道路立体交差化の例

鉄軌道整備の方向性 【新空港線「蒲蒲線」】①

◆新空港線「蒲蒲線」の位置付け

運輸政策審議会答申第18号において、目標年次(2015年:平成27年)までに整備着手することが適当である路線(A2)に位置付け



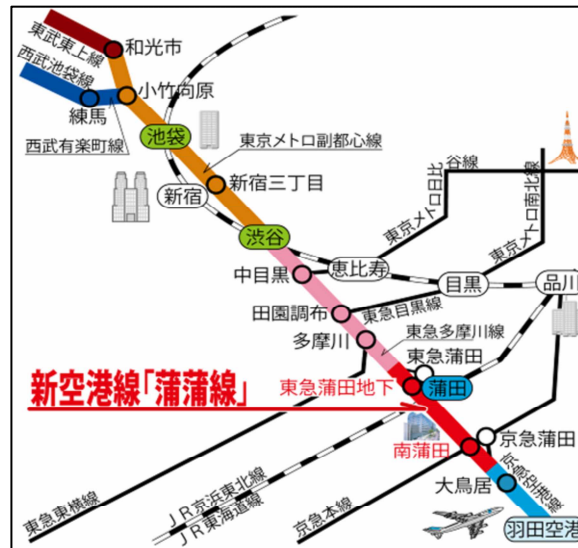
◆整備効果

- ・羽田空港へのアクセス強化
- ・広域交通ネットワークの形成
- ・東京圏多方面からのシームレス化
- ・移動利便性の向上
- ・まちづくりへの寄与
- ・緊急時の迂回ルート確保



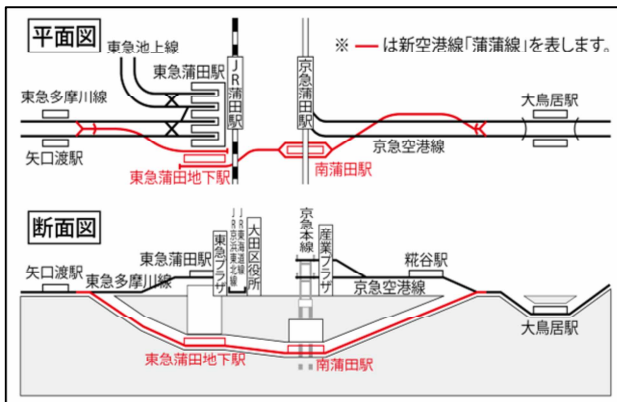
◆広域交通ネットワーク

羽田空港～蒲田～渋谷～新宿三丁目～池袋～東京西部を結ぶ広域交通軸を形成



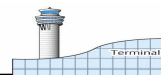
◆整備計画の概要

整備延長:約3.1km 事業費:1,080億円



◆時間短縮例

区間	短縮時分
自由が丘～羽田空港	18分 (51→33)
田園調布～羽田空港	18分 (49→31)
武蔵小杉～羽田空港	14分 (46→32)
大森～大鳥居	7分 (29→22)
下丸子～大鳥居	9分 (31→22)

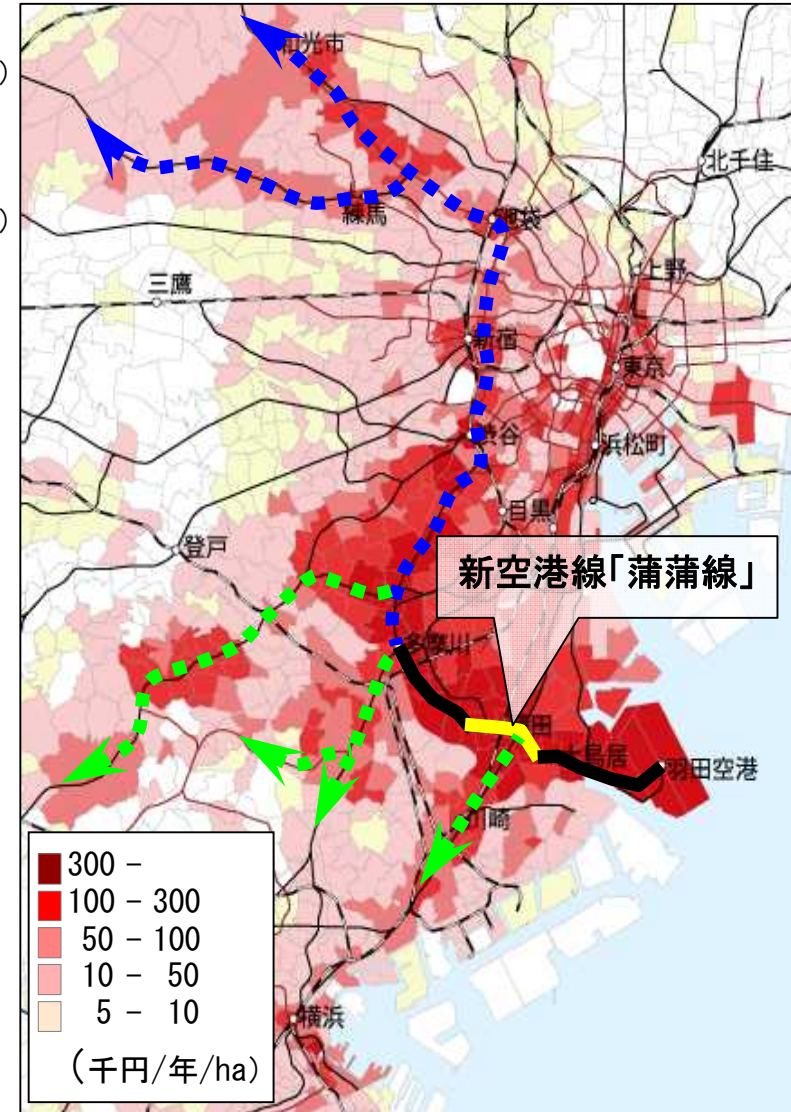


鉄軌道整備の方向性 【新空港線「蒲蒲線」】②

◆整備促進の経緯(答申以降)

- 平成14～16年度 大田区整備調査(路線計画等の基礎調査)
- 平成15・16年度 都市鉄道整備等基礎調査(上下分離ケーススタディ路線)
- 平成17年度 「大田区蒲蒲線整備促進区民協議会」発足
(平成18、19、23、24年度に協議会開催)
- 平成19年度～ 大田区整備調査(鉄道ネットワーク変化を踏まえた調査)
調査に伴う勉強会(国、都、区、鉄道事業者)の開催
(平成19年度～24年度 6ヵ年19回)
- 平成24年度 「新空港線整備資金積立基金」の積立てを開始

◆利用者便益の分布状況



◆平成23年度調査の結果

①概算事業費

総事業費
約1,080億円

②想定輸送人員

1日当り輸送人員		
総輸送人員	うち航空旅客数・都市内旅客数	
約42.8千人	航空旅客 約16.1千人	都市内旅客 約26.6千人

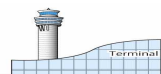
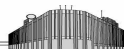
③事業採算性

(都市鉄道等利便増進法の適用を想定)

営業主体	整備主体
受益相当額	累積資金収支 黒字転換年
28.1億円/年	21年

④費用便益分析

B/C (費用便益比)
1.6(30年)
1.8(50年)



羽田空港跡地の基盤施設について

◆現状と課題

【道路】

- 旧環状8号線が空港西ランプから空港へのアクセス道路となっている。
- 旧環状8号線は、広幅員を擁する道路となっており、道路横断の難しさなど、将来の土地利用の支障となる。

【護岸】・・・跡地が広域避難場所に指定

- 多摩川、海老取川の堤防が未整備。
- 高潮と津波等に対する安全度が低い。

【ライフライン】

- 既存のライフライン施設は、空港の施設のために整備されたものである。

◆方向性

【道路】

- 区内を通過する交通の円滑化。
- 第2ゾーンの環状8号線を多摩川側へ切り替え。
- 穴守橋横の交差点(※1)は、旧整備場地区の再編整備状況を踏まえつつ、必要に応じて見直し。
- 旧環状8号線は、交通量を踏まえて幅員の縮小等を検討。
- 天空橋駅に駅前広場を整備。

【護岸】

- 災害に強い多摩川、海老取川堤防の整備。
- 景観や親水性に配慮。

【ライフライン】

- ライフラインの安定供給確保の観点から、既存施設も活用しつつ、将来に渡って必要な施設を適切に配置。

